

## メディアスエフエム第110回番組審議会 議事録

### 1. 審議日程

令和8年3月19日(木)

### 2. 場 所

知多メディアスネットワーク(株)本社 21会議室

### 3. 審議者 ※敬称略、五十音順

出席委員) 片山麻有、関雅夫、高井智広、森岡厚喜、山森英津子

欠席委員) 大西彰 以上1名欠席

### 4. 議 題

#### (1) 近況報告

- ・活動報告
- ・今後の活動予定

#### (2) 番組について審議

### 5. 審議内容

番組審議 特別番組「未来のためにできること～東日本大震災から15年～」

内コーナー「夢団 阿部素佳さん インタビュー」

(放送日：3月11日(水))

概 要：東日本大震災から15年となった3月11日に、震災の記憶を未来につなぐためにどんなことができるか考えていく番組

内 容：岩手県釜石市にある釜石高校の有志で結成されている震災の伝承活動団体

「夢団」の活動内容や活動への思いをインタビュー

「夢団」とメディアスエフエムのコラボ企画として

「釜石夢団834新聞」を発行予定。

関 委員 / ・夢団の活動内容と阿部さんの取り組みがうまく伝えられていた。

「震災の記憶がないことが、負い目でもある反面、活動を楽しめる良さがある」という内容は興味深かった。

・阿部さんが楽しんで活動している、という事に対しMCが感じた思いに共感することができた。

- ・釜石夢団 834 新聞を読んできてみたいと思わせるコーナーだったが、なぜ新聞の発行だったのかの説明があったら、なお良かった。

高井委員 / ・楽しんで防災を啓発するという視点は、人の命がかかっている問題のため、誤解を招く可能性もあるが、活動継続に大事な視点であると感じた。  
・震災を覚えていない世代を見据えて語り継いでいくことが大切であるし、他の災害、この地域だと「伊勢湾台風」なども同じだと感じた。  
東日本大震災からこの地域の災害の話につなげてほしかった。  
・夢団の規模や人数がわかると良かった。  
・命をつないでいくことが「楽しい」と語る高校生にうれしい気持ちになった。

山森委員 / ・普段は高校生だから、普段の様子も知りたかった  
・防災の活動は、聞いている人が自分もできるようにもう少し具体的に聞けるとよかった。  
・若い世代の担い手がいない中、活動しているのが楽しいと言っていることがとてもよかった。  
・もう少し楽しいと思えるところや、やりがいについて深く聞きたかった。

片山委員 / ・MC の質問が良く、良いコーナーだった。  
・津波の恐怖などは、年代やその人の背景によって感じ方は人それぞれだが多くの人に伝え続けることで、また次に伝えていく機会が増えると思う。

森岡委員 / ・出来事を伝え、繋いでいく諸団体が若い担い手不足に悩まされている中で「楽しんで」活動している若い世代がいることにおどろき、すごいと感じた。  
・誰がどのように指導してそのような形になったのか知りたいと感じた。  
・夢団と会って色々話を聞きたいと思った。

## 6. 審議機関の答申又は意見の概要の公表

自社ホームページ (URL) への掲載 (2026 年 3 月 19 日)

以上

文責：地域情報部 大賀鉄也